

令和8年2月1日

ご門信徒 様

宗教法人 光照寺
住職 濱寄重信

第40回 定例法座 ためして仏教！！ご報告

- 日時 令和8年2月1日〔日〕 13時半～15時半
- 場所 光照寺
- 必要な物 お数珠 筆記用具 赤本
- 今回のお題

「善い人ってどんな人ですか？悪い人ってどんな人ですか？」

スケジュール：

13：30 お勤め
13：45 座談
14：30 法話
15：30 終了

門信徒さんから要望があり、以前行った、善人ってどんな人？悪人ってどんな人？を、ほぼ同じメンバーで行いました。以前と意見は異なりましたが、話が盛り上がりました。

そして今回は、歎異抄第三条に出てくる、善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をやを元にし『歎異抄』に少し触れて見ました。

『歎異抄』について

『歎異抄』は、親鸞聖人が世を去られて、二十年たち、三十年たっていくうちに、聖人の信心に背くような信心の理解が主張されるという事態が起こってきました。この事態を悲しみ、大きな責任を感じた一人の門侶が、聖人の教えが正しく受け継がれて、世の光となり続けるようにと願って、真実の信心を語られた聖人の大切な言葉をまとめ、さらに誤った信心を批判し

て書き表したのが、『歎異抄』です。

『歎異抄』は、大きく分けて三つの部分からできています。第一は「師訓篇」と呼ばれ、信心を率直に語られた聖人の言葉が、十カ条にまとめられています。第二は「歎異篇」と呼ばれ、『歎異抄』の著者が見聞きして深い悲しみをおぼえた、聖人の仰せに背くような見解が八カ条ほど取り上げられ、批判されています。第三はふつう「後序」と呼ばれる部分ですが、「聖人の常の仰せ」などの大切な述懐、あるいは「信心の同一性」を語られた聖人の述懐という、『歎異抄』の全体をつらぬくような意味深い聖人の信心の吐露がしるされています。さらにまた、著者に動いた「歎異する心」が切々とするされて、この書を読むものに深い感銘を与える述懐となっています。

『歎異抄』 東本願寺出版引用

